

教えて 学んで 楽しもう

学びのトレジャー

Vol.2

2023年12月22日

私が“Repeat After me” をしなくなった理由 ～音読の個別最適化～

埼玉県桶川市立桶川西中学校

佐々木 有美子 先生

英語の授業を見直す中で、経験則から根拠もなく「これはやるべきだ」と思っていたことがたくさんあったことに気づきました。その中の一つが、音読指導のなかでの“Repeat after me.”です。

「先生はなぜ“Repeat after me.”をするのですか？」と、ある研修会で問われたときに、私はきちんと理由が言えませんでした。長い英語学習者としての経験の中でどの先生にもしていただいたことで、自分も授業でやって当たり前と思い、やるかやらないか疑問に思うことすらしていませんでした。

個別最適な授業の実現。それらのことを考えて、授業改善を試みたとき、大切なのは「生徒の学びのニーズ」ではないかと気づきました。「主体的・対話的で深い学び」を実現し、自立学習者を育成する授業では、先生が一方向的に学ぶべきことを与えるのではなく、生徒が学びたいと思うように働きかけ、生徒が必要な学びや知識を自分で取りに行くことができるようにすることが大切です。

今までの音読指導では、私が決めたタイミングで、生徒が読めるかどうか確認することもせず、初めて触れる英語は“Repeat after me.”していました。今思うと、生徒によっては必要ないと感じていたかもしれません。



普通の授業の様子

今年度からは“Repeat after me.”と言うのをやめました。現在の私の音読指導は、①まずは自分で読んでみる。②自分のやりたい方法で音読練習をする。③中間指導で共通の困り感を感じているところにfeedbackをする。④音読で得た知識を使ってSpeakingやWriting活動をする。という流れになっています。②で生徒は自分の必要に応じてデジタル教科書で練習したり、友達同士で確認し合ったり、先生に直接聞きに行ったりと、自分が最適だと思う学び方を選択できるようにしています。先生が全体の中でモデル発音する場面は、③の中間指導になりました。生徒の個別の活動中に共通の読み間違いや発音の分からなさを拾っておいて、ここでfeedbackするため、生徒が必要とする指導を提供することができます。生徒にとっては「分からない」＝「知りたい」ことなので、先生の発音に耳を澄まして聞くようになりました。

デジタル教科書のおかげで、一斉授業では届かなかったところに手が届くようになりました。もっといい方法はないか、これからも研究を重ねていきたいと思います。

開隆堂